

IUHW



入賞者を囲んでの記念撮影

特集
1

新春のごあいさつ

高木邦格理事長

鈴木康裕学長・三浦総一郎大学院長、各病院長・施設長

特集
2

同窓会「マロニエ会」 関東支部会開催

初の「第1期生座談会」レポート



医療福祉の多彩なエキスパートを育てる。

国際医療福祉大学

国際医療福祉大学・高邦会グループ理事長 高木 邦格

医学部1期生が いよいよ今春卒業へ

2023年を迎え、皆様にご挨拶を申し上げます。

日本初の医療福祉の総合大学として1995年に開学した国際医療福祉大学は、現在、大田原、成田、東京赤坂、小田原、大川の5キャンパスの在学学生数が大学院生を含め約10,000人におよび、これまでに卒業生約30,000人を輩出してまいりました。建学の精神である『共に生きる社会』の実現をめざし、各分野の第一人者や優秀な教員のもとで学修した卒業生は、地域医療への貢献はもちろん、グローバルに活躍する医療人も多く、おかげさまで国内外で高い評価をいただいております。創立28周年を迎える本年は、アジアを代表する国際的な医療福祉の総合大学として、グループ全体としてさらなる機能強化を図り、医療福祉専門職の育成により医療福祉分野の発展に一層貢献できるよう努力してまいります。

2017年4月の医学部開設から丸6年となる今年は、いよいよ医学部1期生が卒業を迎え、国内外の医療現場へその一歩を踏み出します。本学として記念すべき年であると同時に、卒業生の活躍ぶりを通じて、本学が実践してきた医学教育の真価が問われはじめる年でもあります。

医学部では、1～2年生の大部分の授業を英語で行い、6つの附属病院と「臨床医学研究センター」として位置づけられている本学グループの多数の医療福祉関連施設において、世界水準の充実した臨床実習を実施するほか、世界各国の医科大学附属病院や医療機関での4～10週間の海外臨床実習を必修としています。また1学年に20人いる多くの留学生とともに学ぶという、日本の医学部では類を見ない国際性豊かで革新的な医学教育のもとで学修経験を積み、6年間で大きく成長を遂げてきた1期生たちが、地域医療への貢献はもちろん、真の国際性を身に付けた医師としてグローバルに活躍することを心より期待しております。

学修環境を守りながら 国際交流活動も再開

昨年も新型コロナウイルスに影響される1年ではありましたが、少しずつ収束の兆しも見えはじまりました。そうしたなか、本学の各キャンパスでは引き続き感染症対策を徹底し、大学運営を行ってまいりました。実習前の学生には自己負担なしでPCR検査を行っているほか、入学式などの大きなイベント



の前にも、医学検査学科の協力のもと参加者を対象にPCR検査を実施しております。今年も感染症対策には万全を期し、学生が安心して学べるだけでなく、教職員も安全に教育に従事することができる学修環境を整えてまいります。

約3年にわたり、コロナ禍で中断していた国際交流活動についても、昨年より少しずつ再開しています。4月には医学部6年生を対象とした初の海外臨床実習を実施いたしました。さらに夏以降は、アジア各国で医学部留学生の入学試験や面接を対面で行ったほか、本学で学ぶ奨学生の卒業後の受け入れ体制について、奨学生の母国を訪問し、協議してまいりました。9月には国際医療福祉大学と学術協定を結ぶモンゴル国立医科大学の創立80周年を記念し、本学と同日の共同医療シンポジウムをウランバートルで行いました。そして10月には3年ぶりとなるIUHW奨学金授与式を東京赤坂キャンパスの大講堂で開催しました。2020年度～2022年度に入学したアジア各国からのフルスカラーシップの奨学生52人に対し、奨学金を授与しました。

今年3月には、医学部第1期生卒業記念行事と、医学部開設から6年間の医学教育を振り返ってさまざまな議論を交わすIUHW国際医学教育シンポジウムを予定し、準備を進めております。さらに今秋、ベトナムとの外交関係樹立50周年記念行事の一環として、日本ベトナム医療シンポジウムを、ベトナムのホーチミンで開催する予定です。

創立30周年に向け アジアを代表する医療福祉の総合大学へ

本学は2年後に迎える創立30周年を見据え、さらなる研究、教育、臨床の充実をめざし、新たな課題への挑戦にも邁進してまいります。福祉・介護人材や看護師の不足が現在、深刻に社会問題化していますが、本学はこうしたニーズに応え、地域の医療福祉に貢献すべく、4月には、成田キャンパスに介護福祉特別専攻科を開設するほか、大川キャンパスには、新たに看護学科を開設いたします。

また、現在、国際的に活躍できる公衆衛生分野の専門職を育成する、公衆衛生専門職大学院の設置準備を進めているほか、成田キャンパスには薬学部を開設構想中です。

さらに、医学部本院としての国際医療福祉大学成田病院の機能の充実、大学全体としての研究機能の強化等、アジアを代表する医療福祉の総合大学としての基盤を築き、医療福祉の発展と医療福祉専門職の育成に貢献すべく、グループ全体としてもさらなる機能強化を図ってまいります。

今後も、創立30周年となる節目の2025年に向かって教職員一丸となって、さまざまなプロジェクトに取り組んでまいり所存です。新しい1年が皆様方にとって充実したよい年でありますよう祈念し、私のご挨拶とさせていただきます。

国際医療福祉大学学長 鈴木 康裕

2023年の新春を迎え、皆様にご挨拶を申し上げます。

新型コロナウイルスが初めて報告されてから丸3年がたちました。治療薬もワクチンもない状態で患者様に対応せざるを得なかった当初に比べ、ワクチンや抗体薬、内服治療薬などが開発されると同時に感染対策が進みました。まだまだ油断はできませんが、医療福祉を取り巻く状況に少しずつ明るい兆しが見えてきました。

国際医療福祉大学の教育現場に目を向けますと、こうした新たな感染症に取り組むことが期待される医療人材の育成をめざしている本学としては、実習を軽視するわけにはまいりません。PCR機器の設置、臨床実習前の実習生全員を対象にしたPCR検査を進め、ほとんどの授業を対面で行ってまいりました。本年も新型コロナウイルス感染拡大防止に万全の対策を講じながら、ウィズコロナの時代を見すえ、コロナ禍以前のパフォーマンスを取り戻せるよう、大学本来の役割を果たすべく前向きに努力を続けてまいります。

今年3月には医学部の第1期生が卒業を迎え、これから国内外の医療現場で活躍できる医療人として羽ばたくことが期



待されています。「国際性を目指した大学」を基本理念の1つに掲げる本学にふさわしい人材育成のため、昨年夏には6年生がベトナムを中心とした海外臨床実習に参加しました。コロナ禍の制約の中、無事実習を終えた学生たちは自信に満ちています。

本学は医療福祉専門職を養成する日本初の総合大学です。学部学科はもとより、関連病院、福祉施設の充実は他の追随を許しません。その本学が創立30周年を迎える2025年、さらにはその先も継続して発展していくため、その歩みをひと時も止めてはいけません。

2021年には成田キャンパスに臨床工学特別専攻科を新設いたしました。コロナ禍で、臨床工学技士の深刻な不足に対応する判断でした。また、本年4月には大川キャンパスに看護学科を、成田キャンパスには高齢化社会の進展で不足する介護人材を育成する介護福祉特別専攻科を開設します。

さらに成田国際空港を有する国際都市・成田は国内外のさまざまな医療関係機関との連携が一層促進されることが期待されます。成田病院は、コロナ禍に対応して予定を早めて開院しましたが、国際展開するうえでは欠かせない薬学部を2024年4月をめどに成田キャンパスに設置する方向で検討しているところです。

本学が医療福祉の総合大学としてさらに発展していくために、診療、教育、研究の3本柱は欠かせません。優秀な研究者はすでに数多くおりますが、総合力として研究の成果を出していけるよう、研究を支援する組織Academic Research Organization (ARO) を強化していきたいと考えています。

新しい年も教職員一同精一杯努力してまいります。一層のご支援ご鞭撻をよろしく願いたします。

国際医療福祉大学大学院長 三浦 総一郎

新年を迎え、新春のご挨拶を申し上げます。

今年卯年ですが、ウサギは飛躍と平和の象徴とされます。未だに世界は感染症や戦禍の混乱の最中にありますが、皆様と一緒に世界の平和を祈るとともに、わが国がそして本学がさらなる発展と力強い繁栄を遂げることを願っております。

本学大学院は本年4月で創設25年目を迎え、4つの研究科に医学や保健医療福祉学における51分野・100以上の多彩な領域やコースを有しており、昨年3月までの修了生は約4300名を超え（修士課程3870名、博士課程434名）、順調な運営を行っております。修了生は専門学術団体や学会において多数の方々が活躍しておられ、今後も一層修了生のネットワークを強めて学問の環を拡げたいと存じますのでよろしく



願いたします。

先日のニュースでわが国の小学生世代の平均寿命は105歳を確実に超えるという話を聞いて驚きましたが、マルチステージのライフサイクルへの変換は現実のものとなってます。すなわち、以前は、「成長して教育を受けその後就職して引退する」という単純なライフサイクルの営みの中でしたが、これからの人々は「学び就職、その中でも更に学び別のミッションに就く」という繰り返しあるいは重複が当たり前となり、多彩な選択肢が用意されるべきかと思われます。学び直しすなわち「リスキリング」は流行語となっていますが、大学院で学ぶこと、とくに本学のように働きながら学ぶ環境を提供し、個人のニーズに寄り添う多彩な学びの機会を提案することの意義が益々大きくなることと思います。

また大学院は大学のシンクタンク機能を発揮して先進的な医学研究を牽引する役割をはたさなければならないと考えておりますが、あくまで中心は人と人との結びつきであり、共に歩む世界の創生でなければならず、個性を生かした柔軟な教育の提供とともに社会への成果の還元と実装化をめざす必要があると思います。そして良い教育・研究の伝統を未来へと継承し、今後も国際的な「知の医療交流拠点」としてしっかりとした役割を果たせるように力を尽くす所存であります。

どうぞ本年も皆様のご指導とご協力をよろしく願申し上げます。

同窓会「マロニエ会」関東支部会開催

ハイブリッド形式で432人参加

国際医療福祉大学の同窓会「マロニエ会」の関東支部会イベントが11月13日、大田原キャンパスで開催された。2025年に創立30周年を迎えることから、同窓生同士の学科間の横の連携、世代間の縦の連携を一層深めていこう、と今回は初めて「第1期生座談会」を開いた。当日は幹事会、座談会、分科会がいずれもZoomによるオンライン参加もできるハイブリッド形式で行われ、オンライン参加者、教職員、在校生ら総勢432人が参加。なかには、家族連れで参加する同窓生の姿も見えた。

各学科同窓生の代表でマロニエ会の運営にあたる幹事らによる幹事会は午後1時から行われ、冒頭に鈴木康裕学長がビデオレターの中で、同窓生たちが各就職先で高い評価を得ていることへの謝意を表明。合わせて2年後となる開学30周年に向けての協力依頼のメッセージがあった。

続けて理学療法学科第1期生の上田清史代表幹事（同窓会長）が「病気が障害を持つ人も健全な人も互いに認め合って暮らすことができる『共に生きる社会』の実現は開学当時非常に新鮮に聞こえた」と指摘。この建学の精神がこれからも受け継がれることをめざして母校の繁栄を願う活動を今後、一緒に進めていきたい、と強調した。同窓会事務局からは年度事業が報告された。

在学時の思い出、卒後の苦労話を披露 第1期生7人による座談会

午後1時半から開催された「第1期生座談会」には第1期卒業の7氏が壇上に登り、国際医療福祉大学への進学の原因や在学時の思い出、現在に至るまでの苦労話のほか、次の世代への提言を披露した。（詳しいレポートは次頁）



●鈴木学長のビデオレターが流された幹事会



●座談会の様子



●メキシコから飛び入り参加の大里圭一さん

メキシコから飛び入り参加も

座談会の後半では、オンラインで視聴参加していた国際協力機構（JICA）メキシコ事務所次長の太里圭一さん（放射線・情報科学科1期生）がメキシコから飛び入りで参加するサプライズも。大里さんは卒業から現在までの活躍の話を紹介してくれた。

会場では1期生の姿を写真に収める同窓生や教職員の姿もあり、卒業から24年の歳月、メキシコとの1万キロの距離を超えた一体感を深める機会となった。

午後3時からは各学科別の分科会が行われ、卒後研修会、特別講演会など学科ごとに趣向を凝らしたイベントがあり、多くの同窓生が参加し、在学時代を振り返っていた。

1期生座談会の出席者

- 王 麗華（看護学科）
大東文化大学教授
- 西田 裕介（理学療法学科）
国際医療福祉大学成田保健医療学部副学部長・理学療法学科長
- 藤川 義久（理学療法学科）
医療法人社団功德会那須訪問診療所 リハビリテーション部部長
- 前田 悠志（作業療法学科）
しおかぜ病院（香川県）リハビリテーション部部長
- 渡邊 清美（作業療法学科）
国際医療福祉大学保健医療学部 作業療法学科助教
- 平田 文（言語聴覚障害学科＝現言語聴覚学科）
国際医療福祉大学保健医療学部 言語聴覚学科准教授
- 平山 淳一（言語聴覚障害学科＝現言語聴覚学科）
旭神経内科リハビリテーション病院（千葉県）
千葉県言語聴覚士会 災害リハビリテーション委員長

国際医療福祉大学同窓会「マロニエ会」関東支部

1999年3月、大田原キャンパス保健学部（現保健医療学部）第1期生479人の卒業を機に設立され、栃木県の県木であるトチノキ（マロニエ）から「マロニエ会」と命名された。現在は大田原のほか、小田原、成田、東京赤坂、大川の5つのキャンパスから毎年2000人強の同窓生が生まれており、2022年6月時点の同窓生数は延べ30,826人となっている。2014年度から学科横断的な同窓会活動を支援するため、地域単位の支部会組織に組み替えた。関東支部会は大田原、小田原、成田、東京赤坂キャンパスの卒業生が集う同窓会で、このほかに九州支部会、海外支部会（北京）がある。

28年前の国際医療福祉大学はどんな大学でしたか？

開学時の国際医療福祉大学を知る 初の「第1期生座談会」レポート

倍率28倍！豪華な教授陣！ 「医療福祉の総合大学」誕生

一卒業生の就職・進学実績がまだない、開学したばかりの国際医療福祉大学に入学しようとしたきっかけは何ですか？

西田 やはり新しい大学の新しい分野に興味を持ったためですね。ただ入試当日、会場に着くと、理学療法学科だけで600人も受験者が！合格できるのはとても思いませんでした。あとで聞いたところ一般入試の倍率は28倍だったとのこと本当に驚きました。

渡邊（旧姓：藤井） あの頃はまだ、作業療法を学べる4年制大学があまりありませんでした。合格通知に同封された教員一覧を見て、先生方の経歴や実績の凄さに驚き、思わず大学に電話して本当にこの教員が揃うのか？と質問してしまったほど。今思うと相当厄介な新入生でしたね。

王 たしかに素晴らしい教授陣が揃っているなどパンフレットを見て興味を持ちました。当時はスマホがないため、大田原市について知るために地図を買って、10円玉をたくさん準備して公衆電話から大学に問い合わせた記憶があります。留学生は面接試験があって、大谷藤郎学長をはじめ著名な先生方を目の前にとても緊張した思い出があります。

平田 私は高校時代、ボランティアに行った鹿教湯病院で言語のリハビリに興味を持ったことが入学のきっかけです。当時、言語聴覚の勉強ができる大学は3校しかありませんでしたが、そのなかで「医療福祉の総合大学」を掲げる本学に興味を持ちました。

平山 私は親族に医療職が多かったため、本学への進学を決めました。建設途中のキャンパスを下見に来ましたが、当時5階建ての3階部分までしか完成しておらず、入学までに校舎が建つのか心配でした。

部活動や行事は自分の手でつくるもの！ 第1期生ならではの思い出

一開学時ならではのエピソードをお伺いできました。それでは大学在学中の思い出を教えてください。

平山 1期生は部活の立ち上げも自分たちで行いました。私は吹奏楽部だったのですが、地元の高校に楽器を借りる交渉からスタート。あまり深く考えずに初代学科長で日本の言語聴覚分野の第一人者である笹沼澄子先生に顧問役を依頼してしまいましたが、今思えば相当恐れ多い行いだったのではないかと反省しています。

藤川 入学後、最初にできた友人の西田とは、多くの時間を共に過ごしました。サッカー部でも一緒にでしたが、グラウンドにナイター設備がなかったため、車のヘッドライトで代用していましたね。3年次には栃木県内に大学リーグができ、練習にますます熱が入りました。試合と試合後の打ち上げ会までが楽しい思い出として記憶に残っています。

前田 バレー部を立ち上げ、大学リーグ14部からスタートしました。部員同士、車で千葉県や群馬県など、あちこちに試合に行きました。部活動で得たことは多く、学生時代の大切な思い出になりました。

大里（メキシコからZoomで途中から飛び込み参加） 1期生だったので、何をやっても正解！で不正解！という思いで卒

にとられずに好きなことをやっていた記憶があります。アルバイトで資金を貯めてはバックパッカーをしながら、海外の人々の暮らしや医療現場を見てきました。その経験が今の自分につながっています。

一皆さん、第1期生だからその経験をお持ちですね。思い出話は尽きませんが、今在学している後輩たちへのアドバイスと、母校、同窓会への激励の言葉をお願いいたします。

王 学生時代の学びと人とのつながりが、社会に出るときに役立ちます。在学時、留学生のパーティーで大谷藤郎学長が話されていた「共に生きる」が自分の中にしっかり息づいており、今自分の授業の中でもよく使っています。大学で得た力があれば、明るい未来を切り開くことができると信じています。

西田 公私共に存分に暴れまわってください。私も後輩の皆さんに負ける気はありません！1期生が50代に近い年になってきたので、同窓会のスタートもこれから。更に強い同窓会作りをしていただけたら嬉しいです。

藤川 大学の明るい情報は同窓生を誇らしい気持ちにさせてくれます。同窓生が国際医療福祉大学を卒業したことに誇りを持ち続けることが、同窓会を強くすることになると思うので、関係される皆様にはこれからも頑張っていたきたいです。

前田 最近、学ぶことが楽しいです。依頼があったものは極力断らないようにしていると、それが自分の学びや人脈につながり好循環になっています。皆さんも何かで声がかかったら、そのことに感謝し、断らずに臨んでいくよと思います。

渡邊 今では28期生が入学し、たくさんの卒業生が社会で活躍されています。全国に散らばっている同窓生の組織を、同じ1期生の上田代表幹事がしっかりとまとめてくださっていることに感謝しています。多くの皆様に同窓会を盛り立てるために力を貸していただければと思います。

平田 人と人の繋がりと感謝の気持ちが大切です。自分が教員となり母校に戻ってきたとき、育ててくださった先生方のご苦労が初めてわかりました。昨年ご逝去された笹沼澄子初代学科長の思いや願いを、後輩たちに託していけるよう努めたいです。

平山 同窓会の立ち上げ時、今後どうなるか心配していましたが、医療福祉分野を引っ張っていく大学の同窓会として、立派に成長しており感無量の思いです。

一最後に上田清史代表幹事から総括をお願いします。

上田代表幹事 第1期生で集まって話せる機会がほとんど持てていなかったのが今回の座談会は大変楽しかったです。メキシコからも参加してくださり、本学同窓生の活躍の幅の広さを強く感じています。他期生にも素晴らしい同窓生がたくさんいるので、ぜひ、これから育ててくれる後輩たちを応援していただきたいです。今後さらに、全国各地、各年度に発信力を持つ同窓会組織にしていきたいです。本日はありがとうございました。（司会は岡野真人副代表幹事が務めました）



●座談会メンバーと丸山仁司初代理学療法学科長が記念撮影

鈴木学長、WHO執行理事に就任

国際医療福祉大学の鈴木康裕学長が、2022年12月から2024年5月開催の世界保健総会（WHO総会）までの約1年6か月間の任期で、厚生労働省の指名により世界保健機関（WHO）執行理事に就任した。執行理事は、WHO全加盟国で構成されるWHO総会で選出された34か国によって推薦される。年2回開催される執行理事会に出席し、WHO総会への助言や提案、WHO総会での決定事項を実施するなどの職務に当たり、世界の保健分野を実質的に牽引する大変重要な役割を担う。

厚生労働省は、WHO執行理事への鈴木学長の指名理由について「近年、新型コロナウイルスの発生など国際保健を取り巻く状況が大きく変化しているなか、公衆衛生危機、感

染症対策など、WHOは国際社会においてますます重要な役割を担う。WHO総会はWHOの最高意思決定機関であり、執行理事はWHO総会に向けての事前協議や助言、提案を行うこととされる。保健分野における高度な専門的知識を有し、かつ厚生労働省医務技監を務めた経験を持つ鈴木康裕氏が執行理事に指名する」としている。

就任にあたり、鈴木学長は「感染症のパンデミックや紛争に伴う飢餓など世界では緊急に取り組むべき課題が山積するなか、このような大役を仰せつかったことは身が引き締まる思いだ。我が国の経験と技術を世界の人々の健康向上に役立てることができるよう、全力を尽くす」とコメントしている。

読売新聞の千葉県販売店組織から本学に250万円寄付

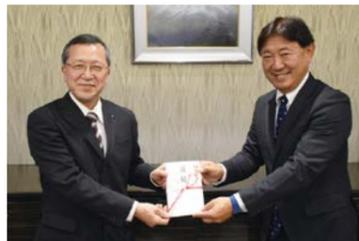
国際医療福祉大学は12月7日、読売新聞の千葉県内の販売店（YC）でつくる千葉県連合読売会から寄付金250万円の目録が贈られた。新規購読者の紹介を1件受けるごとに一定額を社会貢献活動に充てるキャンペーンの一環で、本学の附属病院である国際医療福祉大学成田病院が新型コロナウイルスの感染防止対策に精力的に取り組んでいることなどが評価されたもの。

東京赤坂キャンパスで行われた贈呈式には、読売新聞側から千葉県連合読売会の佐藤政敏会長、東京本社販売第五部の伊藤集一部長らが訪れ、本学の鈴木康裕学長らがお迎えした。

佐藤会長は「新型コロナウイルス感染拡大の影響で、医療に携わる皆様が日夜休む間もなく、命がけで戦っていることへの感謝と敬意の気持ちをお伝えしたいと思います。また、千葉県の読売新聞販売店の所長やスタッフに対して、2021年9月、10月と2022年5月に成田キャンパスでのワクチン職域接種にご協力をいただき、心から御礼を申し上げます」と挨拶した。

鈴木学長は「大変貴重な浄財をいただき誠にありがとうございます。本学の建学の理念の一つが『地域に開かれた大学』です。新型コロナウイルスのワクチン接種など、今後も地域に貢献してまいりたいと思っています」と感謝の言葉を述べた。

2021年11月には読売新聞販売店と読売新聞グループ本社から2000万円の寄付をいただいている。



●千葉県連合読売会の佐藤政敏会長（左）から寄付金の目録を受け取る本学の鈴木康裕学長

全国障害者スポーツ大会で学生がサポーターとして活躍

栃木県で10月29日から10月31日まで開催された第22回全国障害者スポーツ大会に、大田原キャンパスの理学療法学科3、4年生88人、作業療法学科3、4年生の計158人が選手団サポーター（ボランティア）として活動した。県内23の大学と専門学校が計1270人のサポーターを派遣。本学は2番目に多い人数だった。

理学療法学科はポッチャ、作業療法学科はソフトボールを担当。県からのサポーター派遣の要請を両学科は積極的に受け入れた。サポーターの学生は、大会前にはYouTubeを使った障害者スポーツに関する講義の受講や応援旗を制作。大会中は競技の応援をはじめ、選手の会場への誘導、練習時のサポート、弁当の運搬、トイレの介助などを行った。選手と話をしたり、ゲームをしたりして交流を深めた。理学療法学科3年の男子学生は「障害がある方でもスポーツに熱心に取り組んでいる様子を見て感動した。今後もさまざまなボランティアに参加したい」と話していた。

大会後にはキャンパスに選手団を派遣した5つの自治体からお礼の手紙やお菓子が届いた。多くは各自自治体を担当した学生個人へのお礼が記されており、学生はもちろん学生サポーターの養成・派遣に尽力された両学科の先生方にもうれしいお礼となった。

また、大会後には栃木県の国体・障害者スポーツ大会局の橋本陽夫局長が大田原キャンパスを訪れ、9年前から準備を進めてきた大会が、コロナ禍での開催だったが無事終了できた、と報告。同局長から「国際医療福祉大学の大会への協力が大きかった」との謝辞をいただいた。



●ポッチャ競技の熊本選手団とサポーター



●お礼のお菓子

福岡シミュレーション医学センターで研修医コンテスト

国際医療福祉大学と高木病院との連携により運営する医学シミュレーション教育施設「国際医療福祉大学 福岡シミュレーション医学センター」で、今年も高木病院研修医の縫合・結紮（けっさつ）技術を競うコンテスト「結紮王」が開催された。同病院の外科系部長医師たちの審査で、臨床研修医14人が、特殊な皮膚モデルを使って「単結節」「マットレス」2種類による表皮縫合と糸結びの技術を競い合った。

優勝したのは、研修医2年目の原田美紀医師。「高木病院は、大学病院と市中病院の『いいとこ取り』をしたような総合病院。救急でのファーストタッチに関わることができ、海外からの留学生が実習に来るので感化されることも多い。ここを研修先を選んで本当によかった。最先端の高機能シミュレーターがこれほどそろった施設はほかにないのでは」と話している。



●審査の様子



●参加者と審査員

ブータン王国一行 医学部視察

11月25日、成田キャンパスW棟（医学部）において、国際協力機構（JICA）のブータンの医学教育体制強化を支援する技術協力の一環として、ブータン王立医科大学関係者5人が医学部を視察した。

同国初の医学部開設とそれに伴うシミュレーション教育拡充の準備として企画されたもので、翌26日は同国の保健省幹

部も参加、医学部の基幹病院である国際医療福祉大学成田病院を視察した。

25日は、本学から鈴木康裕学長をはじめ、河上裕医学部長、吉田素文副医学部長、潮見隆之副医学部長、赤津晴子医学教育統括センター長、高須賀茂文国際室長が参加。本学グループ紹介や医学部シミュレーション教育の説明後、成田シミュレーションセンター（SCOPE）で、赤津センター長、椎間優子講師のもと、シミュレーション機器を使用した医学教育について、体験を交えながら一行に紹介した。

また26日は、国内外の患者様に最新の医療を提供している成田病院を視察、宮崎病院長主催の懇談会では、日本とブータンの医療提供体制の違いなど、活発な意見交換が行われた。



●シミュレーション機器を体験



●鈴木康裕学長によるあいさつ

防災訓練で「身の安全を確保する」ミニ講義

小田原キャンパスでは12月13日、大規模地震を想定した防災訓練を行った。地震が発生した際に学生や教職員が自身を守る方法を知るとともに防災用品を含むキャンパスの災害対策の強化を目的に実施したもので、学生81人、教職員19人の計100人が参加した。

訓練は2部で構成され、第1部では、揺れの収束後、集合場所に避難して点呼を行う「避難訓練」を実施した。

第2部では、大学院災害医療分野の内海清乃講師による「身の安全を確保するためのミニ講義」がオンラインで行われた。内海講師に第1部の「避難訓練」の講評や日頃の備えに関するアドバイスをいただいたほか、講師自身が普段持ち歩

いている防災グッズ、職場や自宅に常備しているアイテムが紹介された。

当日は学生防災委員が積極的に訓練実施に協力、参加した学生が将来医療従事者として患者・利用者の安全を確保する意識を高める機会となった。



●内海講師によるオンライン・ミニ講義

Campus report キャンパスレポート

●大田原キャンパス ●成田キャンパス ●東京赤坂キャンパス ●小田原キャンパス ●大川キャンパス

大田原キャンパス

茨城高等学校・中学校と高大連携協定調印

茨城高等学校・中学校と本学との高大連携協定調印式が11月18日、大田原キャンパスにおいて行われた。この締結で大田原キャンパスの高大連携協定校は7校目となった。当日は、茨城高等学校・中学校の梶克治校長と本学の鈴木康裕学長が「連携協力に関する覚書」にそれぞれ署名を取り交わした。

協定締結後、茨城高等学校・中学校の種田誠理事長より「この協定で、本校の生徒たちが医学や大学を身近に感じ、興味や希望を引き出すことを期待したい」と挨拶。鈴木学長も「本学は医療福祉の総合大学として国際的な分野も踏まえて教育、医療に携わっている。長い伝統を持つ高校との連携協力関係を結べたことを嬉しく思う」と挨拶した。

同校は、水戸藩の藩校を起源とする茨城県内最古の私立学校。2019年に医療系大学進学希望生徒向けに専門のカリキュラムを設けた学級横断型の「医学コース」を設置して、幅広いキャリア教育を実践しており、同コースを履修した卒業生は本学医学部をはじめ数多くの医療系大学に進学してい

る。今回本学と高大連携協定を締結したことで、生徒の経験値をさらに向上させるプログラムを提供するだけでなく、教員間の交流など高校・大学が一体となった教育の取り組み強化を図っていききたい。
(入試広報室 川上二郎)



●高大連携協定を締結した茨城高等学校・中学校と本学

成田キャンパス

「認知症予防」テーマに市民公開講座

市民公開講座が11月29日、成田キャンパスで開催され、「認知症予防」をテーマに作業療法学科の澁井実教授、寛智裕助教が講義を行った。

講義では、認知症の発症を防ぐ薬はまだないものの、発症を遅らせたり、症状の進行を緩やかにしたりすることはできると説明。まずは現在の認知機能を知るため、数字とひらがなを交互に順番通り線を結ぶテストを参加者全員に受けてもらった。

続いて、認知症の予防に効果があるデュアルタスク(二重課題)にも挑戦。この日は、足踏みしながら野菜の名前を挙げる内容だったが、考え込んで足が止まったり、名前を間違えたりするたびに笑い声が上がると、和やかな雰囲気の中で認知症予防への理解を深めていく様子うかがえた。

参加者からのアンケートには、認知症について「来るべきものは仕方ない、と思えるようになった」「予防に努めたい」といった感想が寄せられ、今回の市民公開講座も好評のうちに終了した。
(広報 城貴弘)



●公開講座の様子

東京赤坂キャンパス

3年ぶりの開催となった避難訓練

東京赤坂キャンパスで12月9日、コロナ禍により中止となっていた避難訓練が3年ぶりに行われた。3階倉庫が火元との想定で自衛消防隊が活動を開始。通報、初期消火などにあたる一方、各階で任命された避難誘導員の指示で、教職員ら教職員及び学生約80人がG階ロビーまで階段を利用して避難した。

屋外での初期消火訓練では、赤坂消防署員や赤坂消防団員の指導のもと、模擬消火器を使って火元に見立てた的を掛けて噴射したり、屋内にある消火栓からホースをつないで実際に放水したりした。白煙が充満したテントの中に入り、障害物を避けて通り抜ける訓練も行われ、参加者は「壁に沿って低い姿勢で進めば絶対に出られる」という署員の言葉を実感していた。

いつ起こるかかわからない災害。避難場所や消火器、消火栓の場所を確認しておくことの大切さを強く感じる訓練となった。
(東京赤坂キャンパス事務局 野原大彰)



●消火訓練

●放水訓練

小田原キャンパス

第17回 運動会開催

11月26日、小田原キャンパス城内校舎で、第17回運動会が開催された。今年度は新型コロナワクチン3回接種を条件とし、1、2年生の希望者が60人ほど参加した。当日は天候に恵まれず、屋内競技のバレーボールのみの開催となった。

実行委員長の開会の挨拶から始まり、参加学生は感染対策を行ったうえで、学科、学年ごとのチームによるトーナメント戦で試合が行われた。できるだけ多くの参加者がたくさんの試合に参加できるようにと、実行委員が工夫を凝らした内容であった。学生が夢中でボールを追いかける姿や喜ぶ笑顔はとても印象的であった。

開催までに運動会実行委員の学生が打ち合わせを重ね、競技種目、各種目のルール決定といった企画、チーム編成等の準備を行ってきた。最終的にバレーボールのみの開催となってしまったが、参加学生からは「久しぶりに運動ができ、とても楽しかった」、「運動を通して、お互いの笑顔を見ることができ、嬉しかった」などの感想があり、とても充実したイベントとなった。

また、閉会式には、企画・運営に携わった運動会実行委員の学生に対して、参加した学生から温かい拍手が送られた。制限の多いコロナ禍でもこのような機会は学生にとって貴重な思い出の1ページとなった。
(学務課学生係 藤田淳子)



●バレーボールの試合風景



●参加学生たち

大川キャンパス

大内田准教授の論文 長谷川賞受賞

福岡保健医療学部言語聴覚学科の大内田博文准教授(福岡県言語聴覚士会会長)が『高次脳機能研究』で発表した論文「アルツハイマー型認知症における語想起障害一意味的クラスター形成からの検討」が、日本高次脳機能障害学会の長谷川賞を受賞した。

この研究は、臨床でよく用いられる「語の流暢性課題」を駆使し、アルツハイマー型認知症が進行とともに語の喚起が難しくなる要因に意味記憶障害が関与することを明らかにした。「古典的な手法を用いながら、新知見と独創性に富み、高次脳機能に関わる研究の発展に寄与する」というのが受賞理由である。

長谷川賞は、高次脳機能に関し、優れた業績をあげている若手研究者を鼓舞することを通じ、この領域の研究発展に寄与することを目的に学会の創設者、長谷川恒雄先生の功績を記念して設けられた賞。

大内田准教授は、「研究の遂行から論文投稿まで多くの方に尽力いただいた。この賞をいただき大変嬉しい」と感想を述べるとともに、「これからも、言語障害を有する方々の支えにつながる研究や活動ができるよう精進を重ねていきたい」と抱負を語った。

これについて為数哲司学科長も「粘り強く研究を続けてきた賜物だ。栄誉ある賞を石川幸伸准教授に続き当学科から2人も受賞できたことを誇りに思う」と喜んで



●受賞した大内田准教授(写真中央)

大川キャンパス

令和4年度 地域公開講座を開催

地域公開講座が12月10日に開催された。この講座は、本学の持つ教育・研究機能を広く地域社会へ還元するための取り組みの一環として、地域の皆さまを対象に開催している。2020~2021年は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、開催を見合わせていたが、今年度より感染対策を行ったうえで、3年ぶりの開催となった。

今回は、「生活習慣病や認知症の予防とつき合い方 ~人生100年時代をより良く生きるための健康管理について~」と題し、福岡薬学部の今村友裕講師が講演を行った。

講演の前半は主に糖尿病についての講義が行われた。糖尿病は予備軍も含めて増加傾向であり、近年登場した新薬によって治療も大きく変わっていること、発症予防が最も大切であることなどが説明された。

後半は認知症に関する講義で、認知症の多くはアルツハイマー型認知症であり、脳の変性が進行していく病気で

あることが説明された。現在、保険適用となっている治療薬の特徴や認知症における漢方薬の位置付け、および発症予防のポイントなどが紹介された。もの忘れなどで不安なときは、専門の診療科を受診して適切な治療を受けることも重要と話した。

詳細なデータを用いた講演は好評で「また開催を」との声が寄せられた。
(学生係 松永稔史)



●講演を行う今村友裕講師



●地域公開講座の様子

国際医療福祉大学成田病院

病院長 宮崎 勝

千葉大学卒、医学博士。前国際医療福祉大学三田病院病院長。元千葉大学大学院医学研究センター制御外科教授、同大附属病院長・副学長。第112回日本外科学会会長、日本肝胆膵外科学会名誉理事長。第49回日本胆道学会会長。The International Surgical Group (ISG) 日本代表メンバー。



コロナ禍と同時に開院した当院は、新年度に開院4年目となります。病院の拡充も徐々に進み、スタッフ全員の努力によって病床稼働数は350床を超えるようになりました。

国際医療福祉大学病院

病院長 大和田 倫孝

山形大学卒、医学博士。前自治医科大学産婦人科准教授。日本婦人科腫瘍学会認定指導医・婦人科腫瘍専門医、日本産科婦人科学会認定産婦人科専門医、日本臨床細胞学会認定細胞診専門医、日本がん治療認定医機構がん治療専門医。



昨年も、終始新型コロナウイルス感染症との戦いでした。那須の地域医療に支障をきたさないためにも、朝の決定事項が夕方には変わるといったゲリラ的な医療体制が求められました。発熱外来も然り、「患者様が来院すれば、すべて対応する」「地域の先生方からの紹介は必ず受ける」「ワクチン接種も可能なかぎり行う」をモットーにしてまいりました。その結果、日常診療への影響は最小限に抑えられたと思っております。

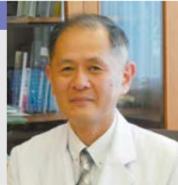
本学医学部は、今年3月にいよいよ一期生が卒業し、医師として社会に羽ばたきます。現段階で臨床研修医の希望者は20人を超えております。彼らの中から、将来この地域で活躍する医師が誕生し、医師不足が解消されることを期待したいと思います。

本年も、高度な医療と地域への貢献に努めてまいります。引き続き、ご指導、ご鞭撻のほどお願い申し上げます。

国際医療福祉大学塩谷病院

病院長 須田 康文

慶應義塾大学卒、医学博士。慶應義塾大学病院整形診療科副部長、国際医療福祉大学三田病院整形外科部長を歴任。日本整形外科学会認定整形外科専門医。



当院は塩谷地区2市2町医療圏における基幹病院として、「地域の医療を支え、住民の健康をお守りする」という責務を担っております。

昨年も、COVID-19と対峙しながら、通常診療をいかに守るかが大きな課題となった1年でした。第7波の最中、7月には初めて院内クラスターを経験することとなりましたが、職員一丸となって対策を行い、短期間で収束に向かわせることができました。このときに得られたノウハウは、当院における今後のCOVID-19対応と通常診療の両立に確実に役立っております。今年はいよいよCOVID-19と一般疾患の共生が現実化し、その時どきの情勢に対する柔軟な対応が求められる1年になるのではないのでしょうか。当院でも、これまで同様、職員が一丸となりその難題に立ち向かっていく所存です。

27診療科、28人の常勤医師を中心に、COVID-19対策を徹底しつつ、行政や医師会と協力しながら、引き続き地域に根ざした中核病院として尽力してまいります。

本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

外来受診者数も1日平均1,000人以上が続き、地域の方々から大きな期待を寄せていただいていると感じます。高度先進医療を提供する大学病院として地域の期待に一層応えていけるよう、今年度もがんばってまいります。

一方、感染状況の変化や海外からの渡航者入国緩和措置によって、いよいよ当院の重要なミッションのひとつである外国人患者の受け入れを開始すべく、その準備が始まっています。本年は当院の大きな新展開が期待されています。他のグループ病院との協力体制をさらに強化し、ともに発展していきたいと考えています。

皆様方の一層のご支援、ご協力を心よりお願い申し上げます。

国際医療福祉大学三田病院

病院長 山田 芳嗣

東京大学卒、医学博士。東京大学大学院麻酔科学教授、横浜市立大学医学部麻酔科学教授、日本麻酔科学会第61回学術集会会長、日本麻酔科学会副理事長を歴任。本学副学長。



3年越しとなる新型コロナウイルス感染症の蔓延、社会基盤の毀損など、各方面に重苦しい倦怠感が立ち込めているなか、当院では急性期医療に総力を挙げて取り組み、充実した実績を上げることができました。救急車の受け入れは、前年をさらに上回る件数を達成し、心臓血管センター、脳神経外科、消化器センター、頭頸部腫瘍センターを筆頭に、高難度の手術を数多く実施しました。さらに、ICUでは質の高い医療を間断なく提供し、重症の患者様の治療回復に大きく寄与しています。長期化するコロナ禍による困難な状況にもかかわらず、このようなすばらしい診療実績を達成した職員一同に感謝と敬意を表します。

当院は、引き続き地域に大きく貢献できる高度急性期病院としての基本的方針を堅持し、着実に前進するよう取り組んでまいります。本年もご指導、ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

国際医療福祉大学市川病院

病院長 大谷 俊郎

慶應義塾大学卒、医学博士。慶應義塾大学名誉教授・前医学部整形外科教授・医学部スポーツ医学総合センター教授・看護医療学部教授。日本整形外科学会認定整形外科専門医・スポーツ医・脊椎脊髄病医。Best Doctors in Japan(2018~2020)。



残念ながら、昨年も当院は新型コロナウイルスの感染拡大に振り回された1年でありましたが、感染症対策チーム、呼吸器内科チームを中心に、全職員の協力で乗り切りました。

昨年、当院は消化器内科4人、消化器外科4人、皮膚科3人の新メンバーを迎えることができました。当院の中心的な機能であるリハビリテーション医療、神経難病センターなどの慢性期医療に加え、呼吸器外科、整形外科を中心に従来の急性期医療が格段に充実し、コロナ禍による受診者数の減少を最小限に食い止め、後半には回復の兆しが見えてきました。また、学生教育においても、医学部、保健医療学部、薬学部からの多くの実習生に対応しております。

本年も、地域の皆様にとって安心してかかれる病院、また職員にとって働きやすくやりがいのある病院でありたいと思いで、さらに前進してまいります。本年もよろしくお願い申し上げます。

国際医療福祉大学熱海病院

病院長 池田 佳史

慶應義塾大学卒、医学博士。慶應義塾大学客員教授。日本消化器外科学会認定指導医・消化器外科専門医、日本外科学会認定指導医・外科専門医。



昨年は、国立熱海病院を継承して国際医療福祉大学熱海病院となって20周年という記念の年でした。この20年間は、診療科の新設や透析センターを含む各種センターの開設など、病院事業を年々拡大してきました。救急医療分野は、救急応需率95%超を維持し、救急車受け入れ件数は2,000件を超えました。熱海市の救急医療の中心となったほか、がん診療連携病院、災害拠点病院やSARS-CoV2感染症重点医療機関など静岡県の中で重要な役割を担っております。これも、職員一人ひとりの病院を支える力のおかげだと思っております。

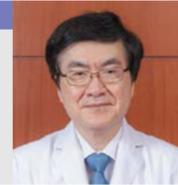
これからの10年は、人口がますます減少し高齢化が進んでいくなか、熱海市のみならず静岡県をも超え、全国から患者様を受け入れられる病院となるよう体制を整えていきたいと思っております。そのためにも、当院の職員がさらに明るく働け、輝ける職場となるよう努めてまいります。

本年もご支援、ご指導をよろしくお願い申し上げます。

山王病院

病院長 藤井 和行

東京大学卒、医学博士。前東京大学産婦人科主任教授、日本産科婦人科学会監事・前理事長、東京都産科医療協議会会長、国際医療福祉大学大学院・医学部教授、国際医療福祉大学グループ産婦人科統括教授。



当院は創設以来、オープンで安心な、思いやりのあるプライベートホスピタルとして歴史を築いてきました。現在は、大学の臨床医学研究センターの1つとして歩みを進めています。

わが国では新型コロナウイルス感染症の流行に対し、今なおマスクが手放せない状況が続いていますが、海外では昨年のサッカーワールドカップの盛り上がりに見られたように、マスクを離れ、流行前の日常を取り戻しつつあります。ワクチン接種は5回まで済んでいる方もいて、3年間に及ぶ我慢の生活からの出口戦略が模索されています。

新型コロナウイルス感染症の流行は、病院受診者の大幅な減少を招きました。どの病院も運営上の試練に耐えています。しかし、弱音を吐いておくのではなく、今こそ私たち医療従事者は、患者様の健康回復と維持を第一に考え、その結果として患者様からの支持を得て、病院の運営を安定させる努力が求められているときだと考えます。当院では改装工事がかなり進んでおり、病院機能の強化が図られています。

今年1年、どうぞよろしくお願い申し上げます。

新宿げやき園

施設長 柳川 敬

国際基督教大学卒、社会福祉士。大日本印刷株式会社、都内在宅介護事業所で勤務経験後、国際医療福祉大学グループに入職。グループ人事部にて、新宿げやき園の立ち上げ、塩谷病院の承継等を担当の後、医療福祉管理部にて、主にグループ福祉・介護施設の運営管理業務に従事。



当園は、都心部にありながら緑多い静かな環境の中、ユニット型の特別養護老人ホームと障害者支援施設を併設する特色ある施設として開設し、15年目を迎えました。

その後、時間経過に伴い、ご利用者の高齢化・重度化も顕著となってきておりますが、ここ数年はそこに新型コロナウイ

高木病院

病院長 外 須美夫

九州大学卒、医学博士。九州大学名誉教授、九州地区生涯教育センター長。日本専門医機構認定麻酔科専門医。



高木病院の最上階からの眺めには遮るものはありません。南に有明海や雲仙岳、北には佐賀平野が広がります。その佐賀平野に昨年秋、バルーンフェスタが戻ってきました。朝焼けの空に一気に飛び立つ巨大な気球の数々。色とりどり、形さまざまな気球が自由に空を漂う様に魅了されます。

コロナ禍も3年を経ようとしています。スペイン風邪のように、新型コロナウイルスとも3年でサヨナラといきたいものです。新型コロナウイルスは医療的にも経営的にも多大な試練を与えていますが、何より人心への試練に耐えるべく、職員一丸となって取り組んでいます。

さて、今年は医学部から最初の卒業生が出て臨床研修が始まります。当院でも留学生を中心に、成田キャンパスから数人がやって来ます。医師として、形さまざまに飛び立つ彼らの羽ばたきに期待しています。

本年も福岡山王病院、福岡中央病院ともどもよろしく願いいたします。

国際医療福祉リハビリテーションセンター

センター長 下泉 秀夫

徳島大学卒、医学博士。元栃木県身体障害者医療福祉センター医務科長。国際医療福祉大学大学院教授。



大田原キャンパス内にある邦友会の各施設には、多くの障害児者、高齢者、児童の皆さんが入所、通所サービスを利用しています。

新型コロナウイルス感染症の長引く流行のなか、当センターをはじめとする邦友会施設では、これまでと変わらず、学生の皆さんの実習受け入れに対応いたしました。学生の皆さんにも、実習前から行動自粛や事前のPCR検査などを求めるとともに、実習中も感染防止対策に努めていただきました。改めて、各学科の先生方、学生の皆さんのご協力に感謝いたします。

一部の施設での職員や利用者への感染に伴い、居宅サービス提供の一時見合わせが生じましたが、おかげさまで事業への影響は最小限に抑えられました。引き続き、新型コロナウイルスをはじめ、感染症への警戒と備えにご理解とご協力をお願いいたします。

本年も、当グループの結束と強みを生かし、邦友会各施設が連携してウィズコロナの困難な局面を乗り越えていきたいと思っております。ご指導、ご支援をよろしくお願い申し上げます。

ルス感染症への対応も加わり、職員にとっては緊張の日々が長く続いております。また、福祉・介護を取り巻く状況も厳しさを増し、運営面ではむずかしい舵取りが求められています。

一方で、明るい話題として、わが国の介護人材不足の中、昨年5月には大学の支援により、ミャンマーの特定技能介護人材9人を受け入れました。現在、順調に介護技術および日本語の習得に励んでおり、年明けには徐々に介護職員として独立していき予定。その真面目に業務習得に励む姿は、我々も見習うべき点が多いと考えさせられるほどです。

感染対策や人材確保面では、今後もグループ各施設と協力しながら、人材育成に強い施設をめざし、少しでも地域の皆様やグループに貢献できる施設運営に努めてまいります。

本年も、ご指導、ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

国際医療福祉大学成田病院

イルミネーション点灯式と産科の市民公開講座を開催

11月30日にイルミネーション点灯式を開催した。これは成田市と地元電設会社から医療従事者に対する感謝と応援につなげたいというお申し出によるもので、開院以来3回目となる。小泉一成市長・関根賢次副市長、成田市のキャラクターうなりくんなどが来院され、宮崎勝病院長と中世古知昭副院長、伊藤淳子看護部長らが出席のもと約5万球の電球が点灯した。市長からは「コロナ対応をはじめ多くの救急搬送受け入れなど地域医療に貢献いただいていることを感謝している。ぜひこれからも市民の健康を守ってほしい」というお言葉をいただいた。イルミネーションは1月31日まで点灯する。



●イルミネーション点灯式(中央右:宮崎病院長)

12月17日には産科の市民公開講座を開催、産科・婦人科部長の永松健教授と三村暢子医師、秋山真知子助産師が「妊娠・出産から続く女性の健康維持」というテーマで講演を行った。産科では、立ち会い出産や無痛(和通)分娩も始まり、今年1月からは妊娠に関するさまざまな相談を受け入れる「妊娠よろず相談外来」を開始している。参加者は、これから出産を迎えるカップルや娘さんお孫さんを持つ方など幅広く、「良い出産が女性と子どものその後の健康に影響することを初めて知った」「次回はこの病院でぜひお産を経験したい」「近々よろず相談に伺います」など多くの声が寄せられた。次回の市民公開講座は2月4日、耳鼻咽喉科部長と皮膚科部長によるアレルギーに関する内容を予定している。(広報室)



●市民公開講座(産科・婦人科部長 永松教授)

国際医療福祉大学病院

カンター市視察団の見学を受け入れました

那須塩原市は、ベトナム社会主義共和国カンター市との将来的な協力に向け、相互に視察団を派遣している。このようななか、以前に当院の那須シミュレーション医学センターに深く感銘を受けた渡辺美知太郎那須塩原市長の声がけにより、11月11日、カンター市視察団の見学を受け入れた。

視察団一行はさっそく、腹腔鏡や内視鏡のシミュレータのモニターに映るリアルな画像に釘づけとなり、また人型のシミュレータに聴診器体験では驚きの声をあげるなど、予定時間を超えての滞在となった。

さらに、医学用語の通訳として、ベトナム出身の医学部臨床実習生が大活躍し、視察団の方々からやさしく声をかけられるなど温かい交流もあった。今回の見学受け入れは、専門性と国際性を兼ね備える施設として、両市の交流に一翼を担うすばらしい機会となった。

(総務課 中澤彩乃)



●真剣な表情でモニターを見つめる視察団の方々

国際医療福祉大学三田病院

2年ぶりに健康セミナーを開催

11月12日、感染症拡大防止のため休止していた健康セミナーを2年ぶりに開催した。「手術で治す弁膜症」をテーマに、8,000例以上の臨床実績を有する心臓外科部長の高梨秀一郎教授を講師として、心臓の構造や弁膜症の病因、外科手術の方法について動画を使用して説明した。「スタッフが大変有能なので、むずかしい手術はここでやると決めている」と当院の医療スタッフの優秀さについても触れた。

質疑応答では、「手術の適応年齢」や「生体弁の場合の手術回数」などの質問にも丁寧に回答し、盛況のうちに終了した。参加者からは「ネット動画でしか見たことがない高梨先生のお話を間近で聴くことができた。超一流の先生にもかかわらず親しみやすくお話しいただき、いずれ手術をするときの不安を少し減らすことができた」など、多くの感想が寄せられた。

(総務企画課 青島千恵)



●会場内の様子 ●スライドに加えホワイトボードも活用して説明

国際医療福祉大学熱海病院

土石流災害を想定した災害訓練を実施

11月19日、2022年度の災害訓練が行われた。当院は、静岡県から「災害拠点病院」の指定を受けており、2021年に発生した熱海市伊豆山地区の土石流災害では、多数の傷病者を受け入れた。この訓練に先立ち、11月10日にはエマルゴ(机上)訓練を行い、当日の流れを確認したうえで本番に臨んだ。

訓練には約120人の職員に加え、小田原保健医療学部の学生30人が模擬患者として参加した。会議室には災害対策本部、外来受付付近には指揮所を設置し、各体制の緊密な連携が行われた。

また、熱海市消防本部の協力により、救急車を利用した患者の搬送訓練も実施。ウォークインの患者も含めたトリアージ、本年度導入した電子カルテによる傷病者管理など、災害マニュアルの実行に無理がないか確認を行った。

これら一連の訓練を通して、災害時の正確かつ迅速な情報管理の必要性を再確認するとともに、地域の中核病院としての多岐にわたる役割を改めて認識する機会となった。

(総務課 太田廉)



●模擬患者に対する治療の様子

国際医療福祉大学市川病院

第80回・第81回 けんこう教室を実施

新型コロナウイルス感染症の拡大により中断していた「けんこう教室」を、昨年10月から再開した。10月15日には第80回として消化器外科部長の山岸俊介医師が、「胆のうの病気、胆石・胆のうポリープ」という表題で講演。第7波後で告知にも制約があるなか、40人の参加申し込みがあった。11月19日には第81回として皮膚科部長の鈴木大介医師が、「爪のお話～爪白癬(爪の水虫)と陥入爪(巻き爪)～」について講演した。73人の参加があり、会場は満席となった。

これら2回のけんこう教室の開催は、今年度強化している当院の消化器系と皮膚科の診療体制を地域住民の方に知っていただくよい機会となった。来場された方々は熱心に耳を傾け、各回とも講演後は多くの質問があり、途中で締め切らせていただくほどであった。また、質問に対するわかりやすい回答が、次の診療申し込みにもつながった。

(総務課 細田幸生)



●「第81回けんこう教室」講演の様子

国際医療福祉大学塩谷病院

矢板・塩谷地区の児童・園児を対象とした手洗い教室を実施

当院では、2010年より毎年、矢板・塩谷地区の小学校、認定こども園、幼稚園、保育園を訪問し、手洗い教室を開催している。

看護師3人がチームを組み、10月中旬から12月初旬にかけて約20の施設を訪問。イラストや写真のスライドを用いて、手洗いやうがいの大切さ、マスクの正しいつけ方などについてわかりやすく伝えるとともに、「うさぎとかめ」の歌にあわせて正しい手洗い方法を紹介している。

子どもたちは、手の甲にばい菌の形をしたスタンプを押され、正しい手洗いに挑戦。手洗いの済んだ子どもたちも、手洗いの歌をいっしょに歌いながら楽しんでいた。

終了後は、「指の間や手首にばい菌がたくさんいるって知らなかった」、「みんなで歌を歌いながら手洗いをして楽しかった」など、さまざまな感想が寄せられた。

今後もこの活動を継続し、子どもたちに手洗いやうがいの大切さを伝えていきたい。(総務・人事課 後藤文栄)



●手洗い教室の様子

●看護師からスタンプを押される子どもたち

山王病院

新内視鏡、新産科・婦人科部門が稼働開始

当院では昨年夏ごろから、本館外来エリアにて診療機能の充実を図るための拡充工事を実施してきた。11月29日には2階に新内視鏡室がオープン。検査室が2ベッドから3ベッドに増え、専用のトイレを備えた個室の処置室を5室完備しており、スムーズにゆったりと検査を受けていただけるようになった。

また、12月19日には、3階に産科・婦人科部門が拡大移転し稼働を開始した。こちらも、診察室が4部屋から5部屋に拡大したほか、従来のNST(分娩管理室)エリアを拡張して専用ルームとすることで、よりリラックスした環境での検査実施が可能となった。

今後もハード面・ソフト面ともに、患者様に安心して快適にご利用いただける病院をめざして、職員一丸となって取り組んでいきたい。(総務課 山本悦子)



●新内視鏡室

●新産科・婦人科部門待合

第11回「共に生きる社会」作文コンテスト 最優秀賞に宮崎西高等学校3年 大仁田健さん

「第11回『共に生きる社会』めざして 高校生作文コンテスト」(主催・国際医療福祉大学、毎日新聞社、後援・文部科学省、全国高等学校長協会)の表彰式が12月10日、東京赤坂キャンパス講堂で開かれた。

今回のコンテストは、コロナ禍で2020年以降中止になったため、3年ぶりの開催となった。「コロナ禍における高校生活と医療福祉」「医療と福祉、わたしの体験」「多様性を認め合う社会をめざして」の3つをテーマに全国から950点以上の応募があり、審査の結果、最優秀賞に宮崎県立宮崎西高等学校3年の大仁田健(おおにた・たける)さんの「私は門前の小僧である」が選ばれ、審査委員長の三浦総一郎・国際医療福祉大学大学院長から表彰状や楯などが贈られた。

優秀賞には神奈川県・相洋高等学校3年の鳥居陽生(とりい・はるき)さんの「新しく見える世界」が、佳作には東京都・見華学園高等学校2年の三浦結那(みうら・ゆいな)さんの「緘黙の先の世界へ」と東京都・国際基督教大学高等学校2年の河野未弥(こうの・みや)さんの「私を知ることから始まる多様性」が選ばれた。また、応募数や入賞者数などを基にした学校賞は、茨城県の常総学院高等学校、江戸川学園取手高等学校、神奈川県の相洋高等学校の3校に授与された。

開会の挨拶で三浦大学院長は「次世代を担う皆様の意見を聞くのは、私たち医療従事者にとって非常に参考になります。日本の未来は明るいと予感させ、うれしく思います」と語りかけた。



●表彰式に出席した受賞者

また、毎日新聞社の元村有希子論説委員は審査委員を代表し、「同質性を尊ぶ日本社会への違和感といった、普段はあまり考えないことを深く掘り下げて、日本がどう変わっていくべきか、というところまで考察を加えた作品が多いと感じた。その説得力、メッセージ性は驚くほどの完成度だった」と講評した。

式では、最優秀賞、優秀賞、佳作の4人が自らの作品を朗読。入選の4人については、オンラインで収録した朗読の動画が会場に流された。

閉会の挨拶では本学の鈴木康裕学長が登壇、本学が障害を持つ人も健常な人も互いを認め合って暮らせる「共に生きる社会」の実現を建学の精神としていることに言及し、「作文コンテストを通して毎回新たな気持ちで建学の精神に向き合えることはこの上ない喜びです」と述べた。

2023年度 キャンパスイベントのご案内

2023年3月に各キャンパスで開催する『春のオープンキャンパス』の日程が決まりました。新型コロナウイルス感染症対策を徹底し、事前予約制のうえ対面形式で実施する予定です。

2024年度受験に向けた最初のイベントですので、新高校3年生・新高校2年生ならびに保護者の皆様のご参加を歓迎いたします。詳細はホームページでご確認ください。

国際医療福祉大学ホームページ <https://www.iuhw.ac.jp/oc/>

※新型コロナウイルス感染状況により開催形式を変更する場合があります。
※国際医療福祉大学大学院のイベントについては6月頃告知します。



大田原キャンパス	成田キャンパス		東京赤坂キャンパス	小田原キャンパス	大川キャンパス	大学院
	医学部以外	医学部				
3/19(日) オープンキャンパス	3/19(日) オープンキャンパス	※3月は未開催	3/19(日) オープンキャンパス	3/25(土) ミニオープンキャンパス	3/19(日) オープンキャンパス	※3月は未開催

令和4年度 学位記授与式・卒業式 / 令和5年度 入学式

令和4年度 学位記授与式・卒業式

■学部・大学院 学位記授与式

- ・大田原キャンパス(学部、大学院)
日時：令和5年3月10日(金)11:00～
会場：大田原キャンパス 那須アスリーナ(体育館)1F
- ・成田キャンパス(学部、大学院、専攻科)
日時：令和5年3月12日(日)11:00～
会場：国際医療福祉大学成田病院4F 成田国際ホール
- ・東京赤坂キャンパス(学部、大学院)
日時：令和5年3月9日(木)15:30～
会場：東京赤坂キャンパス E棟1F講堂
- ・小田原キャンパス(学部、大学院)
日時：令和5年3月9日(木)10:20～
会場：小田原キャンパス 本校舎6F講堂
- ・大川キャンパス(学部、大学院)
日時：令和5年3月7日(火)13:00～
会場：大川キャンパス 講堂

■卒業式

- ・塩谷看護専門学校
日時：令和5年3月3日(金)10:00～
会場：塩谷看護専門学校 講堂

※新型コロナウイルスの感染状況により、変更が生じる可能性があります。

令和5年度 入学式

■学部・大学院 入学式

- ・大田原キャンパス(学部、大学院)
日時：令和5年4月5日(水) 11:00～
会場：大田原キャンパス 那須アスリーナ(体育館)1F
- ・成田キャンパス(学部、大学院、専攻科)
日時：令和5年4月9日(日) 11:00～
会場：国際医療福祉大学成田病院4F 成田国際ホール
- ・東京赤坂キャンパス(学部、大学院)
日時：令和5年4月7日(金) 14:00～
会場：東京赤坂キャンパス E棟1F講堂
- ・小田原キャンパス(学部、大学院)
日時：令和5年4月6日(木) 10:20～
会場：小田原キャンパス 城内校舎 体育館
- ・大川キャンパス(学部、大学院)
日時：令和5年4月4日(火) 11:00～
会場：大川キャンパス 講堂

■入学式

- ・塩谷看護専門学校
日時：令和5年4月7日(金) 10:00～
会場：塩谷看護専門学校 講堂

International University of Health and Welfare IUHW CONTENTS vol.132 January 2023

2～3 **特集1 新春のごあいさつ** 高木邦格理事長 / 鈴木康裕学長 / 三浦総一郎大学院長

4～5 **特集2 同窓会「マロニエ会」 関東支部会開催**
初の「第1期生座談会」レポート

6～7 **トピックス** 鈴木学長、WHO執行理事に就任 / 千葉県読売新聞販売店組織から寄付 / 栃木県で開催の全国障害者スポーツ大会に学生がサポーターとして参加 / 福岡シミュレーション医学センターで研修医コンテスト / ブータン王国一行が医学部を視察 / 防災訓練で「身の安全を確保する」ミニ講義

8～9 **キャンパスレポート** 大田原キャンパスで茨城高等学校・中学校と高大連携協定調印 / 成田キャンパスで「認知症予防」をテーマに市民公開講座 / 東京赤坂キャンパスで避難訓練 / 小田原キャンパスで運動会開催 / 大川キャンパス・大内田准教授の論文が長谷川賞を受賞 / 大川キャンパスで令和4年度地域公開講座を開催

10～11 **施設インフォメーション** 各病院長・施設長の新春のごあいさつ

12～13 **施設インフォメーション** 成田病院 / 国際医療福祉大学病院 / 三田病院 / 熱海病院 / 市川病院 / 塩谷病院 / 山王病院

14 第11回高校生作文コンテスト開催 / 春のオープンキャンパス

15 学位記授与式、卒業式と入学式の予定

16 **キャンパスプラス1 クラブ・サークル紹介** 陸上部(成田キャンパス)

成田キャンパス編

陸上部

運動不足解消から
大会上位入賞をめざす人まで
自分の目的に合わせて楽しく活動中！

こんにちは！成田キャンパス陸上部です。成田キャンパス陸上部には現在55名の部員が在籍し、みんなで楽しく部活に取り組んでいます。キャンパスにある全ての学部の学生が入部できるため、普段はあまり関わることのできない他学部の学生と親しくなれることが大きな特徴です。活動日は週3日で、運動不足解消のためジョギングに来る人や自己ベストの更新や大会での上位入賞をめざす人まで、それぞれの部員が目的に合わせた活動を行っています。主な練習内容は多目的グラウンドでのサーキットトレーニングや大学周辺でのジョギング、坂ダッシュです。また学外の陸上競技場で自主練習を行う部員も多くいます。

ここで、走ることの何が楽しいの？と思っているそのあなたへ向けて、陸上競技・ランニングの良さを3つ紹介します！

①リフレッシュできる！

ランニングをすると、エンドルフィンやドーパミン、セロトニンといった神経伝達物質が脳内で分泌され、高揚感や気分の良さ、幸せを感じることができます。

②健康になれる！

ランニングは脂肪を燃焼して筋肉量を増加させるので、ダイエットにピッタリです。それだけでなく、睡眠の質の改善や便秘解消、骨密度や免疫系の増強効果まであります。

③達成感がある！

ハードなメニューを乗り越えた後や試合で目標を達成できた際の喜びは、何物にも変え難い特別なもので



● 待望の競技会に参加

す。陸上競技で得た成功体験は、どんなに小さなものでも一生の宝物になると思います。

3つの公式戦に参加した今年度
入賞者だけでなく優勝者も！

新型コロナウイルスの感染拡大により、医学・医療系大学の大会は2年連続で中止に追い込まれていました。今年度は徐々に大会が再開され、私たちも3つの公式戦に参加して多数の入賞者・優勝者を出すことができました。全ての公式戦が終了した現在は、主に来年度に向けた練習をしています。冬季は強度の高い練習が多くなりますが、春に笑えるように部員一同頑張っていきたいと思います！

ゆるっと走りたい人も、全力で部活に打ち込みたい人も、どんな人でも楽しめる部だと思えます。少しでも気になった方はE棟前の多目的グラウンドにお越しください。部員一同お待ちしております！

医学部 医学科 2年 長谷川玲子



● 多目的グラウンドでランニング



● 輪になって準備運動



● 公式戦で入賞した部員たち